

泊村老人ホームむつみ荘広報

# アシルとまり

アシルとはアイヌ語で新しいという意味です。

〒045-0202

古宇郡泊村大字茅沼村711番地3  
社会福祉法人 黒松内つくし園  
泊村老人ホーム むつみ荘  
TEL (0135) 65-2255

発行責任者 施設長 高橋 英俊  
編集発行 むつみ荘広報委員会

## 面会等について

当施設では、緊急時を除く入居者様への面会並びに外出・外泊を禁止、「警戒ステージ1」になるまでは対面での面会は行

わない事としております。LINE面会については、通常通り予約の受付をしております。御家族の皆様には何かと御不便をおかけしておりますがご理解ご協力を宜しくお願い致します。



## ミニ夏祭りに笑顔溢れる

9月9日(金)に、3年振りとなるむつみ荘ミニ夏祭りが開催されました。昼の部は、お祭りの雰囲気味わってもらうため、施設玄関前に設けられた屋台に行き、好きな物を選んでもらいました。ユニットに戻り職員と一緒に食べながら「むつみ荘のお祭りといえば焼き鳥とホタテだね!」「どれも美味しいね」と皆さん喜ばれていました。

夜の部では、初めてとなる花火大会が開かれました。花火を楽しみにしていた方が多く、花火を外やユニットからみて「すごいね!家から見られるなんて素晴らしい」と祭り当日の朝に御家族からいただいた、採れたての枝豆をつまみにお酒を飲まれる利用者や歌を歌いながら見られている利用者もいました。「最高にきれいだった、また来年もやってほしい」と翌日も花火の話題で持ち切りでした。ミニ夏祭りでしたが、利用者にとっても喜んで頂けたので、来年は通常開催できる事を職員一同願っています。



## 秋の交通安全運動

社会貢献の一環として、国道229号線茅沼入り口での街頭啓発運動を行いました。むつみ荘職員も通勤時の車の運転には十分気を付け交通安全に努めて行きたいと思ひます。



# 敬老の日

今年度の米寿対象者4名、百寿4名の方に泊村と国から賞状と記念品を頂きました。残念ながら今年も敬老会が

中止の為、高橋施設長より祝い品が手渡されました。受け取った利用者は、嬉しそうに祝い品を眺め「ここで生かしてもらって感謝しかない。まだ長生きしたい。」と涙を流される利用者もいました。みなさんこれからもお元気に長生きしてください。



# 入居状況



むつみ荘では、入居等に関するご相談を随時受け付けております。入居に関するご質問・ご相談は、養護・特養共に【生活相談員】までお気軽にお問い合わせください。

【養護】 2022.9.25		
市町村	入居	短期
泊村	23名	6名
共和町	5名	
余市町	1名	
札幌市	1名	
	30名	6名

入居定員数30名、短期10名



【特養】 2022.9.25		
市町村	入居	ショート
泊村	26名	
岩内町	14名	
神恵内村	1名	
共和町	8名	
寿都町	1名	
余市町	2名	
札幌市	1名	
平取町	1名	
古平町	1名	
	55名	0名

入居定員数60名  
(ショートは空床利用)

# ユニット紹介 ゆらりユニット

養護2階ゆらりユニットは、利用者18名で生活をしています。90代の方がほとんどですが、みなさん元気に暮らしています。週に一度の体操の日には、



ラジオ体操の他に手足の運動や発声練習等を行い運動機能の低下予防に努めています。また、「何か手伝う事ないかい？」と声を掛けてくれた利用者には、食後のテー

ブル拭き、タオルや新聞を畳んだり等、いろいろと手伝ってもらい職員も助けられています。ご家族からの差し入れも多く、スイカやメロン、野菜を頂いた際は利用者と一緒に調理をして美味しくいただいています。コロナの影響で買い物に行けませんが、村内の商店へ注文し配達をお願いしたり、月に一度岩内へ職員による買い物代行支援もしており、以前の様な暮らしが継続出来る様お手伝いさせて頂いています。



Before

9月7日むつみ荘駐車場の白線引きを日本高圧・吉本・ドーピーJV様、北海道岐建様より行っていただきました。8年振りに駐車場の白線が綺麗になりました。ありがとうございました。



After

# 施設長雑感

朝夕の寒暖差の幅が広くなり、山々も色づき始めた今日この頃、いよいよ収穫の秋の到来を実感する季節となりました。先月は9月19日を中心に敬老週間を迎え、本施設では今年度、百寿が4名、米寿を迎える利用者様が4名いらっしゃり、それぞれ国や泊村からの祝状・祝品を私から贈呈させていただきましたが、皆様とても喜び、良い表情していたことが印象的でした。今後とも、お元気で、さらなる健康長寿を目指してお過ごしいただきたいと思えます。また、9日には久しぶりの「全体イベント」として、駐車場に屋台を開設し、焼き鳥やホタテ焼き・カボチャ団子など、普段、食する機会の少ない

食事を振舞いました。さらに夜には花火を打ち上げ、北海道の短い夏を惜しむ催しとして、盛況のうちに終わることが出来ました。利用者様も、花火が打ちあがるたびに、大きな歓声をあげるなど、楽しんでいただけたものと考えます。現状、コロナ感染症はピークアウトに向かっているものと推察されますが、依然として医療機関や高齢者施設等でのクラスターが頻発しております。本施設では、コロナ禍であっても感染症予防対策に万全を期しながら、可能な限りイベントの開催など、利用者様が快適かつ、安全で安心な施設づくりを引き続き進めて参りますので、今後とも、皆様のご理解並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

施設長  
高橋 英俊

